

IFRS 財団 デュー・ プロセス・ハンドブック の改訂に対する対応

1. IFRS 財団 デュー・プロセス・ハンドブックの改訂 に対する対応

ASBJ 主席研究員 こがさか あつし
小賀坂 敦

2. コメント募集「IASB 及び IFRS 解釈指針委員会 デュー・プロセス・ハンドブック」に対するコメント (原文)

3. Comments on the Invitation to Comment “IASB and IFRS Interpretations Committee Due Process Handbook” (原文)

IFRS 財団 デュー・プロセス・ ハンドブックの改訂に対する対応

ASBJ 主席研究員 こがさか あつし
小賀坂 敦

IFRS 財団の評議員会は、2012年5月8日に、「IASB 及び IFRS 解釈指針委員会 デュー・プロセス・ハンドブック」改訂に関する公開草案を公表した。IFRS 財団の評議員会は、国際会計基準審議会（IASB）のガバナンス及び監督に責任を負い、当該ハンドブックには、IASB 及び IFRS 解釈指針委員会が従うべきデュー・プロセスが定められている。

今回の改正では、以下が行われている。

- IASB と IFRS 解釈指針委員会のハンドブックの統合
- 監督及びデュー・プロセス監督委員会の役割の章を追加
- その他、全面的なデュー・プロセスの見直し

我が国の意見が適切に IASB の審議に反映されていくためには、IASB のデュー・プロセスが適切に確立されており、透明性が高いことが必要となると考えられる。したがって、我が国の関係者が協議のうえ IFRS 財団に対し協調して意見発信を行っていくことが有用と考えられ、2012年8月に「アジェンダ・コンサルテーションに関する協議会」（財務会計基準機構（FASF）及び金融庁を事務局とし、企業会計基準委員会（ASBJ）、日本経済団体連合会、日本公認会計士協会、日本証券アナリスト協会、東京証券取引所、経済産業省、法務省をメンバーとする。）が開催され意見交換が行われた。

ASBJ は、上記の議論を経たうえで、次頁以後のコメントを IFRS 財団に送付している。